



肉飯となったわたしを、天白小学校のみんなが心待ちにしてくれていました。大きなランチルームで、わたしのことを6年生の子ども達が紹介してくれました。そしてみんなが、大きな声で「いただきます」と言いました。

「いただきます」と言う言葉は、私達のために肉となってくれる動物の命をいただくことです。」「今日のこの献立をいただくまでに、本当にたくさんの方が関わってくれています。」「私達人間は、一人では生きていけません。動物や自然からの命をもらって、そしていろんな人々が支え合って生きています。」

そんなふうに説明してくれた6年生の子ども達の言葉を聞きながら、わたしはみんなの体の中に入っていました。

(村林祐介・宮原慎司・野村紳悟)